

「緩める」ということ — 笑顔で包まれた卒業証書授与式 —

3月13日(金)、本校の卒業式を挙行政いたしました。

今年度は幼稚部修了生1名、小学部卒業生2名、中学部卒業生1名の計4名が、住み慣れた学び舎を巣立ちました。

卒業式に向け、子どもたちは礼法（座り方、立ち方、礼の仕方など）や歌、呼びかけの発声など、毎日懸命に練習を積み重ねてきました。その上達ぶりは、目を見張るほどでした。

迎えた総練習の日。証書授与から式辞、祝辞と続く間、子どもたちは長時間椅子に座り続けることとなります。本校の在籍幼児児童生徒は9名。そのうち4名が卒業し、残る在校生は5名（小学1・2年生、中学2年生）です。皆、自分の役割を全うしようと、背筋を伸ばし、最後まで集中して話を聞いてくれました。

その立派な姿を見ながら、私はふと考えました。

「これほどまでに張り詰めた緊張を、少し和らげ、緩めてあげることも必要ではないだろうか」

総練習を終えた放課後、式場の最終確認をしながら、どうすれば緊張を「緩める」ことができるか知恵を絞りました。そこで思いついたのが、昭和の懐かしさを感じさせる「紙芝居風」の演出です。

迎えた本番。式辞の中で「おめでとうを伝えます」という場面を作り、卒業生のもとへ歩み寄りました。ここで、筆で「みなさん」「修了」「卒業」「おめでとう」と書いた自作のカードを準備しました。

中学3年生から始まり、小学6年生の二人、そして最後は幼稚部生へ。幼稚部生のカードには、大好きなアンパンマンがお祝いしてくれる絵も添えました。

一度も練習していない、ぶっつけ本番の試みです。途中、カードが引っかかるハプニングもありましたが、それがかえって会場に自然な笑いを生み、式場の雰囲気はふっと和らぎました。子どもたちは皆、上手にカードを引き、私からのお祝いのメッセージをしっかりと受け止めてくれました。

在校生や来賓、保護者の皆様、そして職員までもが、緊張の糸から解き放たれ、会場全体が温かな笑顔に包まれた瞬間でした。

最初から最後までピシッと決まる式も素敵ですが、こうした「ほんわか」とした笑顔に包まれる式もまた、本校らしくて良いものです。和やかな雰囲気のもと、子どもたちの新たな門出を全員でお祝いすることができた、素晴らしい卒業式となりました。

